岩手県立生涯学習推進センター

研修実施報告 Web版

実 施 日：令和2年10月14日（水）
実施場所：県立生涯学習推進センター
受講者数：60名
市町村参加率：33.3%

子どものまなびを支えるセミナー

職　員　研　修
有志指導者研修
要　請　研　修

定員を上回る60名の受講者を迎え、子どものまなびを支えるセミナーを開催しました。未来の風せいわ病院の智田文徳氏から「スマホ・ネット依存が子どもの発達に与える影響とルール作りのポイント」と題して講義をいただきました。また講義の後は、各グループに分かれての情報交流を行いました。

具体例を交えながら説明する智田氏

智田氏の講義に聴き入る受講者

「好き」と「依存」の違いを正しく理解しましょう

智田氏からはまず、子どもの自死の現状や、心のしなやかさと援助希求行動や適応的対処行動の獲得の重要性など、命のことについてお話しいただきました。

その上で、「好き」と「依存の違いは、行為をコントロールできるかどうかということで、智田氏はこの依存状態を「心のブレーキがきかない状態」と例えました。また、誰しもが依存症になるのではなく、「しんどい状況」「孤独な状況」にある人ほど依存症になりやすいと話されました。

依存症に陥らないためには、自分の居場所を持つことや悩んで困った時、人に頼ることができること、頭の中にネットやゲームだけではなく他のことも増やすことが挙げられました。

受講者は智田氏の講義を頷きながら聞き入っており、子ども達を取り巻くスマホ・ネット・ゲーム依存に対する関心の高さが伺えました。

==情報交流==

受講者が全15グループに分散し、グループ毎にスマホ・ネット・ゲーム依存に関する課題と、それに対する解決策を出し合いました。

行政、学童クラブ、教員など職種を超えて交流しました。グループによっては時間が足りず、充分に深められなかったかもしれませんが、最後はまとめた物を会場毎に発表し合い、共有することができました。

共有したアイディアを基に、各所属の実践に活かしてほしいと思います。

活発な議論が交わされた情報交流

《受講者の声》

- わかりやすい言葉で、心に響いた。
- 参加前よりも問題意識が高まった。
- 学童の指導員には関係の薄い内容だと思っていたが今の子ども達に深く関係している内容だと考えさせられた。
- ゲームの動画は衝撃的だった。驚きと共に依存への理解が深まった。

《受講者の評価》

A（有意義だった）	82.1%
B（どちらかというと有意義だった）	16.1%
C（あまり有意義でなかった）	1.8%
D（有意義でなかった）	0.0%

《担当者（阿部）から》

ルールも大切ですが、ゲームやネットに依存しないために、子どもに関わる全ての人が、しなやかな心を育てていくための環境づくりに取り組んでいきたいものです。